

思考力，表現力を高める学習指導の在り方

鳥栖市立基里小学校 教諭 馬場 克

鳥栖市立田代小学校 教諭 榎藤 暢道

1 研究の趣旨

平成10年改訂の学習指導要領は，児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することをねらいとしている。「生きる力」の重要な要素として，いかに社会が変化しようと，児童生徒が自分で課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決することができる資質や能力が挙げられる。その資質や能力をはぐくむためには，論理的な思考力の育成を重視する必要がある。

平成17年度佐賀県小・中学校学習状況調査では，基礎的な知識の定着の程度は，おおむね良好であったが，学んだ知識を活用して考え，判断し表現する力に課題が残った。平成18年度の調査では，学習状況と環境及び児童の意識との相関についての分析が行われた。その結果，算数科や社会科を始めとするいずれの教科においても，発表や討論などの考えを互いに表現する活動を多く取り入れ，児童がそれらを「楽しい」と感じられる場合には，「関心・意欲・態度」ばかりでなく，「知識・理解」，「思考・判断」の観点別評価の通過率も高くなる傾向にあることが明らかになった。

思考するということは，知識を結び付けて考えていくことといえる。そして，その思考の過程は，表現することにより目に見える形となる。思考力と表現する活動との相互関係について，森敏昭は，「両者は相互に密接不可分な関係にある。つまり，表現することによって思考力が高まり，表現するためには思考力が不可欠である。」¹⁾と述べている。「特に言語による表現の場合，表現することは，理解を深めたり，思考力を高める働きがある。」²⁾とし，その理由として，言語に思考を方向付けたり整理したりする働きがあることを挙げている。また，「頭の中で考えた内容を言葉として表現することは，自分の思考過程を客観的に見直すことを可能にする。このような理由により，言語による表現は，理解を深めたり，思考力を高めたりするのである。」³⁾と述べている。これらのことから，思考力と表現する活動は密接に関係しており，表現する活動が思考力を高めるために有効に働くと考えられる。

自己の考えを表現する活動を通して，論理的な思考力を高めるためには，表現する際に相手を意識させることが重要であると考え。相手を意識することは，自己の考えを伝え納得させたいという気持ちを生み出す。相手を納得させるためには，考えの根拠を明らかにしながら順を追って説明することが必要となる。そのことは，自己の思考を整理するとともに，その妥当性を客観的に判断し，より論理的な思考へ高めていくこととなる。

そこで，本グループでは，児童が相手を意識し自己の考えを表現する活動を通して，論理的な思考力を高めることを目指した。その指導の在り方を探るために，「分かりやすく伝えようとする意識を高めるための，話し合いの場の工夫」及び「根拠を明らかにしたり順を追って説明したりするなど，考えを相手に分かりやすく伝えるための表現方法の指導」に視点を置き，単元及び授業を計画し，展開していった。

2 研究教科・領域等

小学校社会科，小学校算数科において，研究課題の解決に向けて研究を行った。

3 研究の成果

(1) 分かりやすく伝えようとする意識を高めるための、話し合いの場の工夫について

論理的な思考力の育成には、児童一人一人が必要な知識を結び付けながら、考えをもつことが重要となる。そこで、これまでの学習で習得した知識を振り返る活動や問題を把握する活動、事実を調べ新たな知識を得る活動などを十分に保障し、見通しをもたせた上で自力解決に取り組ませた。さらに、それぞれの考えを伝え検討する話し合いの場を設定し、相手を意識し思考の過程を整理しながら表現する活動に取り組ませ、思考をより論理的なものへと高めることを目指した(図1)。小学校社会科では、討論を通し、どの解決策がより合理的かを判断させる意思決定型の学習を取り入れた。小学校算数科では、児童が、解決の方法を絵や図、式、言葉で表現し、伝え合いながら、よりよい解決方法を探し出していく練り合いの場の充実を図った。討論や練り合いの場を設定し、考えを出し合いながらよりよい解決方法を検討していくという活動の意義を児童に伝え理解させたことにより、自己の考えを他の児童に分かりやすく説明し、納得させる必要性を実感させることができた。そのことは、分かりやすく表現しようとする児童の意欲を高め、討論や練り合いを活発にすることへとつながった。意識調査においても、「根拠を挙げながら順序よく説明している。」と答えた児童が増加した。これらのことから、分かりやすく伝えようとする児童の意識が高まったことが分かる。

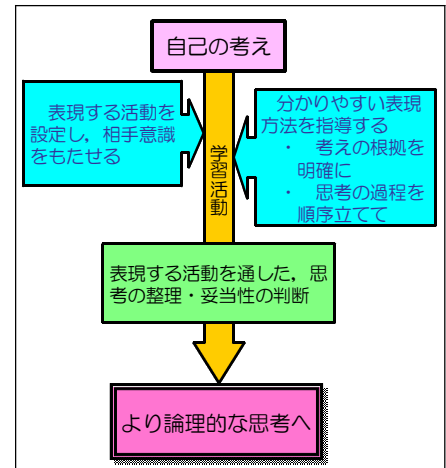


図1 表現する活動を通しての思考の高まり

(2) 考えを相手に分かりやすく伝えるための表現方法の指導について

自己の考えを相手に伝え、納得させるためには、根拠を明確にしながら、思考の過程を順序立てて説明することが重要となる。児童が考えをかき表す場面では、記述の仕方を例示したり、模範的な表現をしている児童の記述を全体で紹介したりしながら、相手に伝わる分かりやすい表現の在り方を理解させた。そうすることで、児童が思考の過程を整理しながら記述できるようにした。さらに、児童が考えを伝える場面では、「まず」「次に」などの順を表す言葉や、「訳を説明します」「～だから～」などの根拠を示す言葉を活用して思考の過程を順序立てて説明するよう指導した(図1)。例示されたものなどを参考に記述したり発表したりする活動を通して、次第に、筋道を立てて考え、その過程を表現できる児童が多く見られるようになった。事前・事後テストを比較しても、根拠に基づく論理的な考えを、順を追って説明している児童が増えた。

これらのことから、相手を意識し自己の考えを分かりやすく表現する活動を学習過程に取り入れることは、論理的な思考力を高めるのに有効であることが分かった。

4 今後の課題

- (1) 論理的に思考し、表現することにつまずきの見られる児童への、効果的な手立ての在り方を探る。
- (2) 思考力の高まりをより客観的に見取るための、評価の方法と評価規準の在り方を探る。

《引用文献》

- 1)2)3) 森 敏昭 「子どもの思考力・表現力を育てる指導」『自ら学び自ら考える力の育成』
1998年 ぎょうせい p.199

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編』 平成11年 東京書籍